

Model

VM-120

ボイスメモリーキーヤー
ボイスメモ
取扱説明書

！ 注意： この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

！ 注意：本機は DC3V 専用です。指定以外の電圧ではご使用にならないでください。

！ 注意：本機に水をかけたり、湿気の多い場所、日の当たる場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。

！ 注意：本機を分解したり、改造しないでください。故障などの原因となります。

★★★ 特 長 ★★★

- ボイスキーヤー4チャンネルとボイスメモ2チャンネル装備！
- 各チャンネル最大20秒の録音／再生が可能！
- 録音した内容は100年間の保存と、10万回の書き換えが可能！
- 高音質音声メモリーICの採用と、ワンチップマイコンによる制御！
- ボイスキーヤーは全チャンネル、オート・リピート再生が可能！
- マイク優先設計により再生中でもすぐブレークインが可能！
- 各ボタンスイッチは操作性重視の最適配置！
- マイク変換コード方式により、各社無線機に対応！

★★★ 仕 様 ★★★

●ボイスキーヤー.....4ch	●消費電流（モニタースピーカオフ待機時）.....最大1mA
●ボイスメモ.....2ch	（モニタースピーカオン待機時）.....最大8mA
●録音再生時間(各ch).....20秒	（モニタースピーカオン再生時）...最大200mA
●8P マイク入力ジャック（アドニス 8P 配列）.....1	●出力電圧.....10mV(rms)
●8P マイク出力ジャック（アドニス 8P 配列）.....1	●形状(突起物含まず).....33(H)×151(W)×141(D)mm
●適合マイクインピーダンス.....500Ω～50KΩ	●重量（電池含まず）.....620g
●電源電圧.....DC3V（単三乾電池2本）	

ADONIS 株式会社 アドニス電機

本 社 〒576-0017 大阪府交野市皇田北 1-38-15

TEL(072)893-3111 FAX(072)891-2240

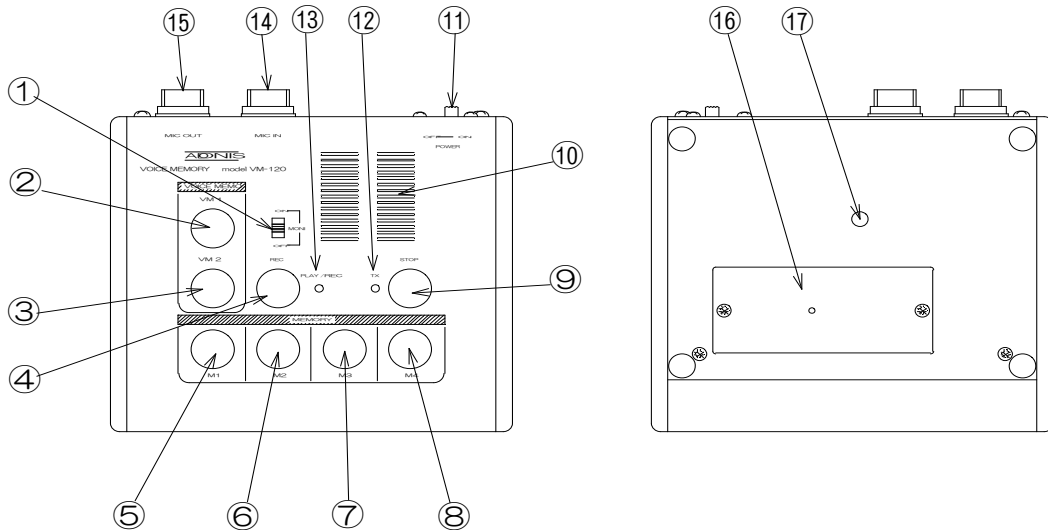
東京営業所 〒101-0027 東京都千代田区神田平河町2番地 大興ビル5F

TEL(03)3866-8761 FAX(03)3866-8858

このたびは、アドニスボイスメモリーキーヤー／ボイスメモ「VM-120」をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。

この「VM-120」は、各チャンネル毎に最大 20 秒の音声を、簡単な押しボタン操作によって、音声メモリーに録音再生できるアダプターです。本機は無線機とマイクロホンの間に接続して、録音内容の送信ができるボイスキーヤー(M1～M4)として動作します。M1～M4 は自動再送信(リト)機能が付属しています。チャンネル VM1、VM2 は、受信内容の一時覚えなどに使用できます。ご使用に際しましては、本機の性能を十分に発揮していただく為此の説明書をよくお読み頂き、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

◎ 各部の名称

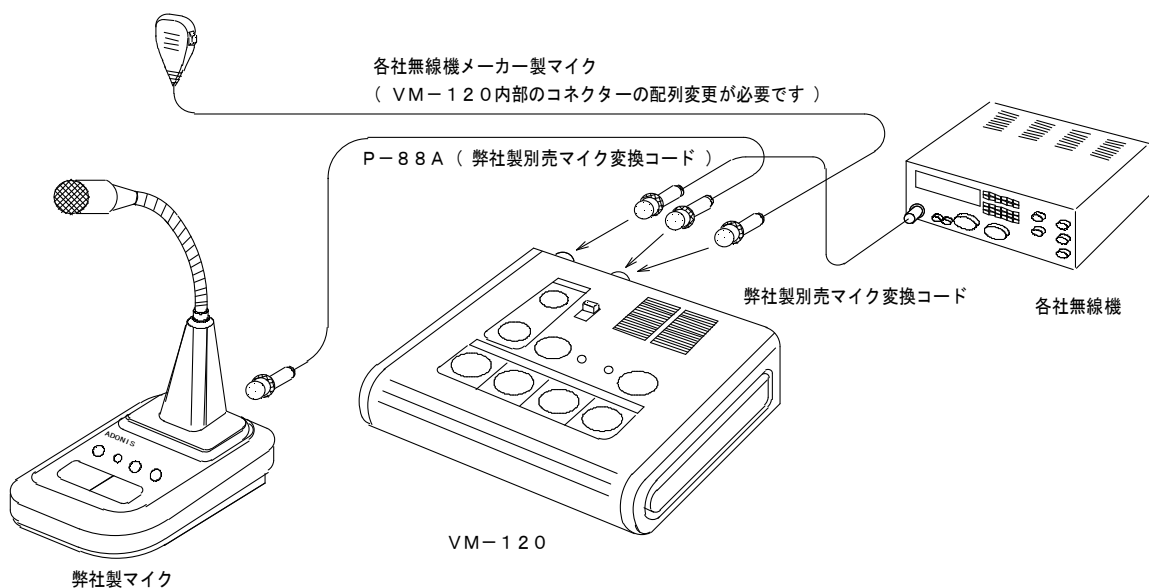


前面図

底面図

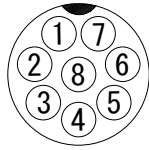
- | | | |
|-------------------|------------------|-----------------|
| ① モニターON/OFF スイッチ | ⑦ チャンネル M3 ボタン | ⑬ PLAY/REC 表示 |
| ② チャンネル VM1 ボタン | ⑧ チャンネル M4 ボタン | ⑭ 8P マイク入力ジャック |
| ③ チャンネル VM2 ボタン | ⑨ STOP ボタン | ⑮ 8P マイク出力ジャック |
| ④ REC ボタン | ⑩ スピーカー | ⑯ 電池フタ |
| ⑤ チャンネル M1 ボタン | ⑪ 電源 ON/OFF スイッチ | ⑰ モニター音量調節ボリューム |
| ⑥ チャンネル M2 ボタン | ⑫ 送信 TX/録音レベル表示 | |

◎ 接続方法



- VM-120のマイク入出力ジャック⑭⑮は、共にアドニス 8P 配列となっておりますので、図のように無線機と本体、マイクと本体の間にそれぞれ適合するマイク変換コード(弊社製別売)を接続してください。
- 弊社製以外のマイクをご使用の場合は、コネクター変更方法を参照の上、ご希望のメーカー配列に変更してください。

アドニス8P 配列



ピン側から見た図

コネクター

ピン番号/色	信号名
① 黒/シールド	・E：アース（マイク信号用）
② 黄	・・・・M：マイク信号
③ 赤	・・・・P：PTT（プレストーク）
④ 紫	・・・・G：アース(PTT用)
⑤ 緑	・・・・U：UP（アップ）
⑥ 白	・・・・D：DOWN（ダウン）
⑦ 橙	・・・・C：U/D コモン
⑧ 灰	・・・・B：DC 給電（+極）

◎コネクター変更方法（裏フタ取り付けネジ4本を外して、裏フタを開いてから作業を行ってください。）

入力側のコネクターのプリント基板上での配線は、出荷時アドニス配列になっておりますので、別紙の図を参考の上、ご使用になるマイクに合わせて入力側のみ変更してください。その時、配線の都合で不要になった線は取り除いてください。本体基板の部品には手を触れないでください。（マイクの電源をマイクラインに重畳しているマイクはご使用になれません。）

◎使用方法

1ー電池の入れ方

- 底面の電池フタ⑩を止めてあるビスをゆるめて電池ケースを外します。
- 単三型乾電池2本を電池ケースに収納し、電池フタを元通りに取り付けてください。
- 電池はアルカリ乾電池のご使用をお勧めします。充電式電池はご使用になれません。

2ー各チャンネルへの録音

- 録音はVM-120に接続されているマイクロホンより行います。録音はどのチャンネルから始めてもかまいません。
- 録音するにはRECボタン④を押しながら、録音をしたい(書換えたい)チャンネルのボタンを同時にREC/PLAY表示LED⑬がオレンジ色に点灯するまで押してください。録音が開始されます。尚、録音中は送信になりません。
- 録音を終えるとき、又は中止するにはSTOPボタン⑨を押してください。録音時間は各チャンネル最大20秒です。もし、録音時間がオーバーした場合は表示LEDの点滅で警告します。
- 録音中はTX表示(赤)⑫が、録音VUインジケータとして動作します。適当なレベルでは声に合わせてチカチカと点滅します。
- 録音が終わったらモニターON/OFFスイッチ①をONにしてスピーカー⑩を鳴らし、再生して頭/尻切れが無いのか、自分のイメージどおり録音されている事を確認してください。確認の際には無線機の電源を切るかマイクレベルを下げて行い、不要な電波の発射を避けるようにしてください。

3ー1 M1～M4の再生

- 再生したいチャンネルのボタンを押してください。再生と同時にPLAY(緑)⑬とTX(赤)⑫表示LEDが点灯し録音内容が送信されます。
- 録音内容をモニターする場合にはモニターON/OFFスイッチ①をONにしてください。モニターが必要でない場合は電池の消耗を減らすためOFFにしてください。モニター音量は底面のモニター音量調整ボリューム⑦で調整が可能ですので、小型マイナスインドライバーを使用して調整してください。（右に回すと大きくなります。）
- 送信は録音内容が終わると自動的に受信に戻りますが、途中で再生を中止したい場合にはSTOPボタン⑨を押してください。
- 再生中にマイクのPTTスイッチをONにすると再生を中止しブレークインする事ができます。
- 電池が消耗してくると、再生のスピードが速くなってきます。その場合は電池を新しい物と交換してください。

3ー2 オート・リピート再生の使い方（M1～M4）

- 再生中に再生しているチャンネルのボタンを押すとPLAY表示⑬が緑から赤に替わり、録音内容をリピート再生することができます。
- オート・リピート再生になると録音内容を一度送信した後、受信待ち受け時間を3秒間おいて、後に再度同じ内容を再生送信するという動作を10回自動で繰り返します。
- 受信待ち受け時間はチャンネル毎にプリセットが可能です。時間を変更するには再生が終了する直前に再生ボタンを押し続けます。再生が終わった瞬間からPLAY表示⑬が1秒間隔で点滅しセットモードになります。再生が終わってから次に再生を開始したいところでボタンから手を離すと、新しく時間がセットされます。一旦、電源スイッチ⑪を切るとこの設定はクリアされます。
- プリセットは0、5～30秒の間が可能です。
- リピート再生を中止するにはSTOPボタン⑨を押すか、マイクのPTTスイッチをONにしてください。
- リピートモードを使いますとコンテスト時や、呼んでくる局数が少ない時間帯でのCQの時に、従来機ではCQの度に何度も再生ボタンを押さなくてはいけなかったのが、QSOの後にだけ再生ボタンを2回押してやればよいので、長時間のオペレーションが非常に楽になります。また、DXペディション局などを呼びに回る場合、連呼が待ち受けしながら行えるので便利になります。

4ー VM1, VM2の使い方

- VM1, VM2は受信内容を書き留める代わりに音声で録音して、一時的に残しておく場合などにお使いください。
- チャンネル当たり20秒の録音再生が可能で、録音、再生方法はM1～M4と同じです。但し、再生時のリピート再生機能と、録音内容の送信はできません。

◎電池の交換時期について

次のような場合は電池が消耗していますので、新しい電池と交換してください。

- 電源スイッチ①を入れると送信 TX/録音レベル表示②が点灯したままになる。
- 再生時に再生音が早送りになる。
- 録音/再生ができない。
- 送信 TX/録音レベル表示②、PLAY/REC 表示③が暗くなってきた。
- モニタースイッチ①を ON にすると上記の症状になる。

◎高周波の回り込みについて

ハイパワーで送信したときや、アンテナと VM-120 が近い場合などに、変調が歪んだりピーピーという音の混入、送信から受信に戻らないなどの症状がでることがあります。その場合アンテナから輻射された電波や定在波が、マイクラインに乗っている場合や回路への飛び込みなどが考えられます。

—改善の方法として—

- マイクコードの引き回し方を変えてみる。
- マイクコードに雑音防止用のフェライトコアを被せる。
- マイクコードの長さを変えてみる。
- アンテナと VM-120 の距離を離す。
- アンテナと無線機の SWR を下げる。
- VM-120 のボディと無線機ボディとを太い電線で接続する。
- 送信パワーを下げる。
- アンテナと無線機を繋ぐ同軸ケーブルにコモンモードフィルターを挿入する。

◎ご注意とお願い

- 再生時（モニタースピーカーON）を多用されますと、電池の消耗が早くなります。
- 付属スピーカーでモニターされますとクロック音が聞こえることがありますが、送信機の帯域外ですので、相手には聞こえません。
- コンテストなど長時間連続して使用される時には、事前に電池を新しい物と交換してから使用してください。
- 使用される電池は同種類の物を使用し、古い電池などと混ぜてご使用にならないでください。
- 弊社製以外のマイク変換コードを使用されますと正しく動作しない場合がありますので、必ず弊社製をご使用ください。弊社製以外のマイク変換コードによるトラブル、故障等につきましては一切の責任を負いませんのでご了承ください。
- TX 表示②が点灯したままになったときは電池が消耗していますので、新しい電池と交換してください。

◎アフターサービスについて

お買いあげいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万が一運搬上の事故などに伴い、ご不審な箇所、または破損などのトラブルがありましたら、お早めにお買いあげいただきました販売店、または弊社に保証書を添えてお申し付けくださいますようお願い申し上げます。またご使用の無線機名、周波数帯モードなどもお知らせください。